

セレスポ

第43期  
株主通信

— 2019年4月1日から2020年3月31日まで —

私たちの仕事は、特別な日を創る事です

株式会社セレスポ

証券コード：9625

## 「イベント・ソリューション・パートナー」の実現に向けて

株式会社セレスポは1977年の創立以来、業容を拡大しながら着実に成長してまいりました。2018年4月よりはじまりました中期経営計画Ⅳでは経営理念である「セレスポの幸福」の考え方を全社一丸となって実践し、持続的な成長が可能な企業となれるよう取り組んでおります。

**Q** 2020年3月期を振り返りお話しをお聞かせください。

**A** 今期の業績は創業以来の記録を更新し会社のイメージも向上しました。

2020年3月期は、中期経営計画Ⅳが着実に実行され大きな成果につながりました。定量的に言えば、売上、利益などほとんどの経営指標において、予算達成はもとより創業以来の記録を塗り替えました。また定性的に言えば、現場力の発揮により各競技団体からの評価が大きく向上しました。

まず、定量部分のハイライトとしては、競争事業（茨城国体開閉会式など）を勝ち取ったのに加えて、陸上競技の世界リレー横浜大会、そしてラグビーのワールド・カップという高単価の案件を受注したことが挙げられます。

また、定性的に言うと、世界リレー横浜大会、ラグビーのワールド・カップなどにおいて当社の業務が高い評価を得たことが大きな成果でした。世界リレー大会では世界陸連の実行責任者から、私に対して直接お礼の言葉をいただきました。

ラグビー・ワールド・カップでも当社の現場力は随所で発揮されました。とくに、10月13日の日本対スコットランド戦では、会場が台風19号の雨や風により大きな被害を受け、試合ができるか危ぶまれていたのに対して、効率的な復旧作業により定刻での試合開始を可能としました。

この試合は、ベスト8入りがかかった両国チームにとっては大切な一戦でした。スコットランド側からは中止になっ

たら法的措置も検討するというコメントが出されていたほどです。それだけに、台風被害をはねのけて、試合を可能としたことで大会関係者からは最大級の賛辞をいただきました。

この二つの世界大会は、社員にとっても今後につながる貴重な経験となりました。総じて、計画に対して結果を得ることができた期であったと思います。

**Q** アフターコロナにおけるイベントの価値（意味）についてお聞かせください。

**A** イベントはこれから、ますます必要とされるでしょう。

当社の経営理念は「イベントを通じて笑顔のある明るい社会づくりに貢献する」ことです。この経営理念は社内でもとても自然に受け入れられています。それはイベントには大きな力があることを皆知っているからです。

当社の扱うイベントは、式典からプロモーション、そしてスポーツ競技まで幅広い分野にまたがっています。それらのイベントは、祝う、願う、団結する、記念する、広めるなどそれぞれの目的を持って行われます。多くの場合、その目的の大元には「人の心に区切りをつけて、次のことに導く」という狙いが潜んでいます。

新型コロナウイルスの蔓延で私たちの社会は大きな打撃を受けました。ビジネスでも個人の生活でも以前ふつうにできていたことができなくなっています。式典ができない新築の建造物、発表会ができない新製品などなど、本来の目的や狙いが果たせず封殺された企画が山積しています。

しかしこの状況は、いずれ、必ず好転すると思います。ウイルスにつまづき、一度は転んだ日本の社会全体が力を振り絞って立ち上がろうとするときが必ずきます。社会が立ち直っていく過程では、さまざまな目的や狙いがイベントに託されることになるでしょう。

厚労省からは、いわゆる「アフターコロナ」の期間に入っても、感染予防を主眼とした「新しい生活様式」は継続するように指導が出ています。当社の扱うイベントについて

はもちろん、それらの指導に沿って「安心・安全」を合言葉として実施していきます。

イベントは、これからの時代ますます必要とされると思います。当社としてはイベントの力を十分に活用して、明るく、前向きな社会づくりに参加していきたいと思っています。

**Q** 株主還元についてお聞かせください。

**A** 今までどおり株主への利益還元は重視してまいります。

当社はその経営理念において、株主の皆様に対しては「業績を反映した好配当」を提供することを宣言しております。そして、これを実現するための努力が7期連続の増配を実現しました。配当金額についても6円から60円へと大きく伸ばすことができました。

60円という金額は前期の42円と比べると40%増ですから、「好配当」を目指す気持がかたちになったと言えるでしょう。この増配は、今期の大幅な増収増益が可能としたものです。ただし、その中味を見ると今限り、つまり来期にはない案件で業績を伸ばしているの、この先の推移は楽観できません。先には不透明さもありますが、こういうときこそ経営理念を実践しようという考えで大幅な増配となりました。

配当に際して、以前は配当性向を意識していましたが、今後は実額で安定的な推移となるようにしてまいります。なお、株主優待制度に関してはいくつか検討すべき課題もあり、このたび一度お休みすることにしました。その原資は増配のなかに組み入れています。

株主の皆さまには引き続き一層のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

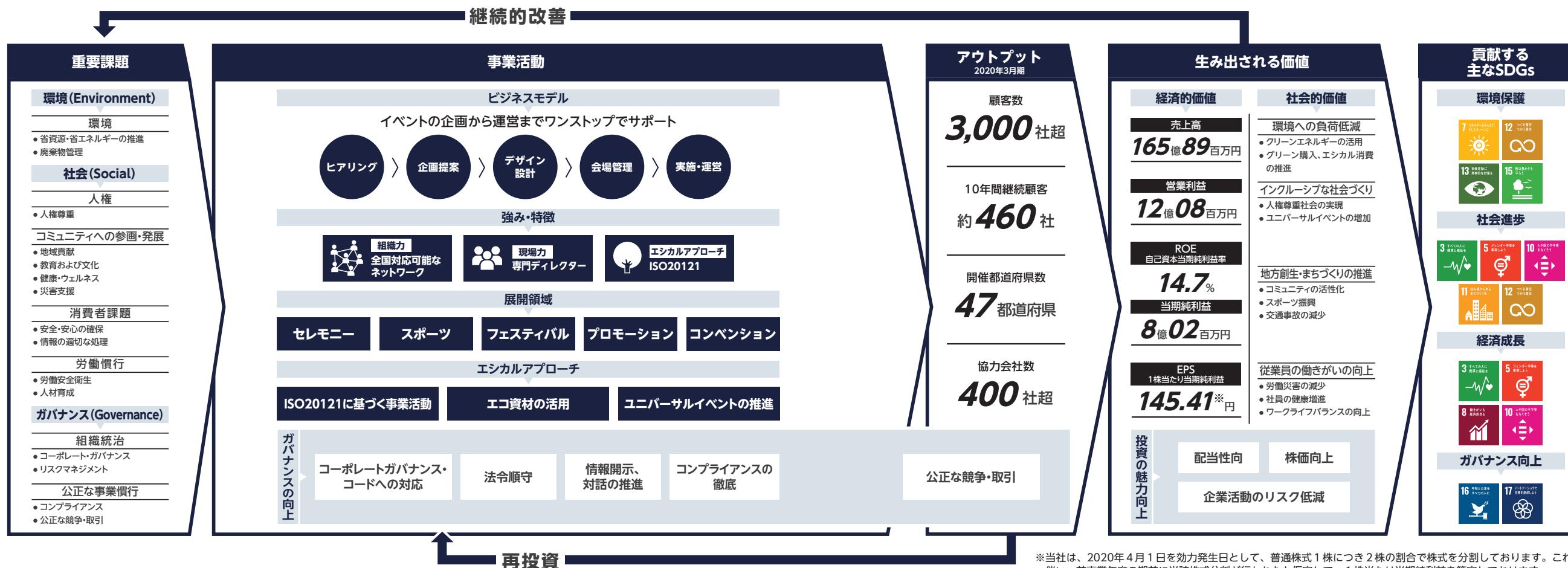
以上



代表取締役社長  
稲葉利彦

セレスポは、イベントの制作会社としてセレモニー、スポーツイベント、プロモーションイベント等、全国規模の大型イベントから地域密着型のイベントまであらゆるタイプのイベントを全国47都道府県でお手伝いしています。社員一人ひとりの柔軟な発想と創造力を基に企画から会場設営や運営までワンストップでサポートしていくことで、イベントに関わる人々の感動と笑顔をつくります。

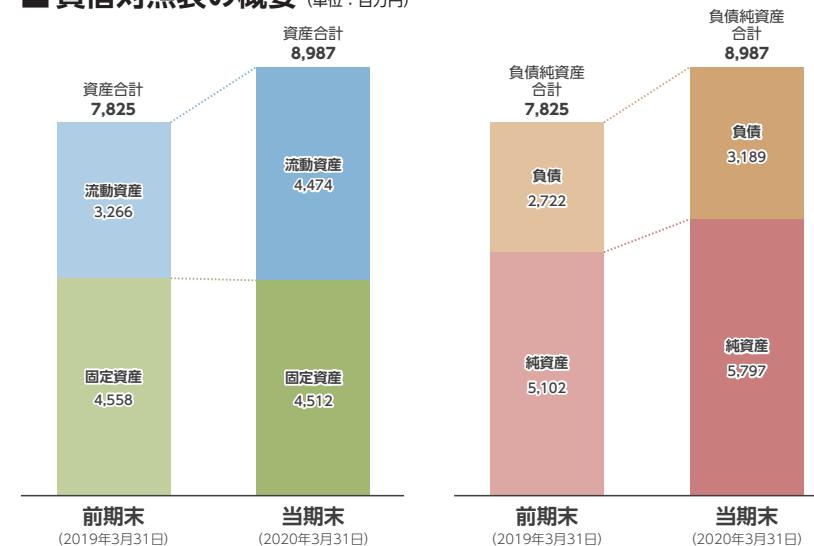
直接体験の場であるイベントは、多くの関心を集めるとともに、情報発信の起点にもなります。このため、時代の求める変化に適応し、社会の期待や課題に応えていくことがイベント制作においても重要だと考えています。当社は、「イベント・ソリューション・パートナー」として、経済的・社会的価値の創出に努めることで、持続可能な成長を目指してまいります。



※当社は、2020年4月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合で株式を分割しております。これに伴い、前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり当期純利益を算定しております。



### 貸借対照表の概要 (単位:百万円)



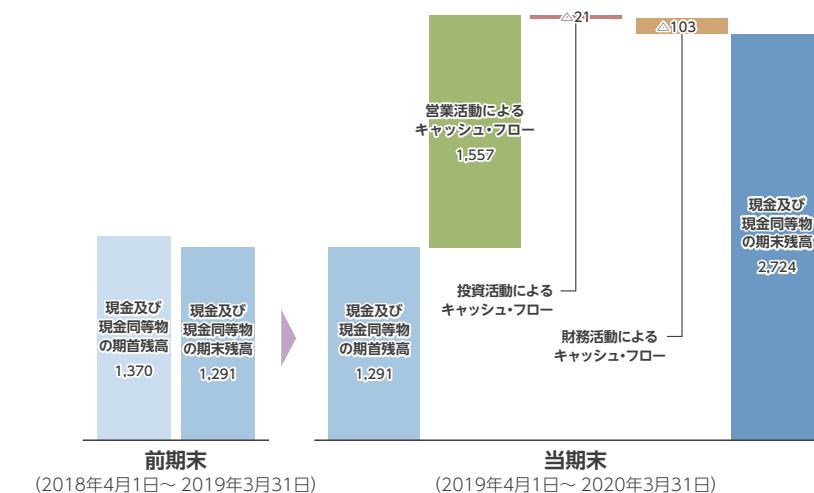
### 自己資本比率

**64.5%**  
前期比 **0.7pt** 減

### 自己資本当期純利益率 (ROE)

**14.7%**  
前期比 **8.5pt** 増

### キャッシュ・フロー計算書の概要 (単位:百万円)



## スポーツ事業・競争事業が業績を大きく牽引

当社は2018年4月にスタートした「中期経営計画Ⅳ」に基づき、収益性の向上に向けて取り組んでまいりました。

売上高につきましては、小規模案件を中心として案件数が減少したものの、国際的スポーツ大会等を受注し、単価が大きく上昇しました。その結果、4,614百万円の増収となりました。

費用につきましては、外注費の増加等に伴い、売上原価が3,199百万円増加しました。また、人員数の増加及び賞与の増加等に伴い、販売費及び一般管理費が679百万円増加しました。

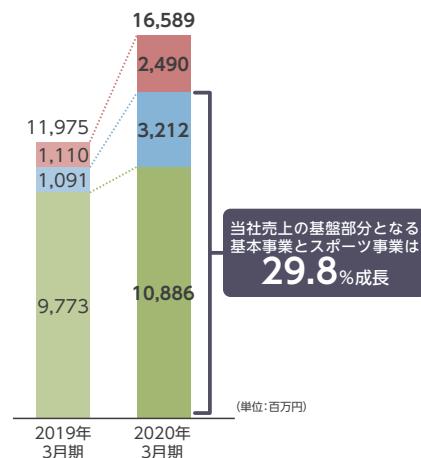
以上の結果、当事業年度の業績は下記のとおりとなりました。

売上高	16,589百万円	(前期比 38.5%増)
営業利益	1,208百万円	(前期比 154.7%増)
経常利益	1,220百万円	(前期比 151.2%増)
当期純利益	802百万円	(前期比 159.7%増)

新型コロナウイルスの感染拡大等により、国際的スポーツ大会等が中止または延期されるなど、先行き不透明な状況が続いております。

当社としては、引き続き中期経営計画Ⅳに掲げた「継続企業の確立」のため、①経営理念の実践、②企業力の増強、③イベント・ソリューション・パートナーの実現に取り組んでまいります。

### ■部門別売上



基本事業	10,886百万円	65.6% (構成比)
スポーツ事業	3,212百万円	19.4% (構成比)
競争事業	2,490百万円	15.0% (構成比)

各部門別の状況は次のとおりであります。

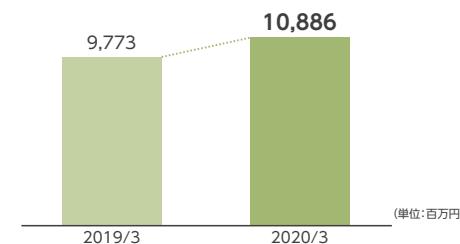
### 基本事業

各営業拠点が担当する、様々なイベント領域  
主なイベント：建設式典、記念式典、地域振興イベント、プロモーションイベントなど

**108億86百万円** (前期比**11.4%**増↑)

小規模案件を中心とした案件数が減少し、また、フェスティバル部門とコンベンション部門の大型案件の受注数が減少しましたが、国際的スポーツ大会に関する大型案件の受注数が増加したことによって受注額が増加しました。この結果、売上高は10,886百万円と前期比11.4%の増収となりました。

(注) 基本事業部門におけるスポーツとは、スポーツ事業部門が担当する領域以外のスポーツイベント（地方自治体や民間企業などからの受託）を意味しております。

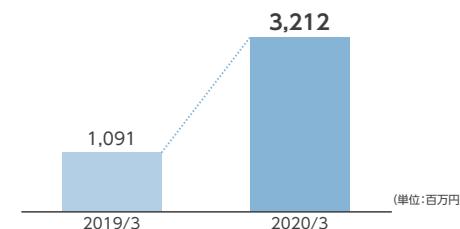


### スポーツ事業

中央競技団体等が開催するスポーツ・競技に関するイベント領域  
主なイベント：日本陸上選手権、トライアスロン大会、Vリーグ、日本女子ソフトボールリーグなど

**32億12百万円** (前期比**194.3%**増↑)

小規模案件を中心として案件数が減少しましたが、国際的スポーツ大会等の大型案件の増加によって受注額が増加しました。この結果、売上高は3,212百万円と前期比194.3%の増収となりました。

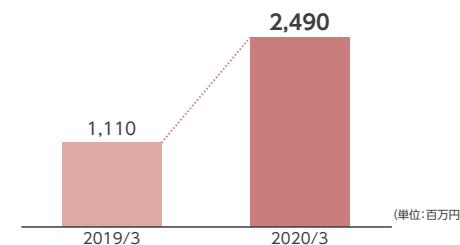


### 競争事業

皇室ご臨席行事を中心とした全国持ち回りで開催されるイベント領域  
主なイベント：国民体育大会、全国高校総体、植樹祭、育樹祭など

**24億90百万円** (前期比**124.3%**増↑)

大型入札案件の受注額が増加したことにより、売上高は2,490百万円と前期比124.3%の増収となりました。



## 社会貢献活動

当社は、経営理念を実現させるために、ISO20121<sup>※1</sup>に基づき、サステナビリティに積極的に取り組んでおります。この一環として、スポーツ分野を中心にさまざまな社会貢献活動を行っております。これらの取り組みが認められ、昨年度に引き続き、スポーツ庁より「スポーツエールカンパニー」<sup>※2</sup>、東京都より「東京都スポーツ推進企業」<sup>※3</sup>に選定されました。

※1 ISO20121：イベントの持続可能性に関するマネジメントシステムの国際標準規格

※2 スポーツエールカンパニー（英語名称：Sports Yell Company）：スポーツ競技に限らず、社員の健康増進のためスポーツの実施に向けた積極的な取り組みを行っている企業をスポーツ庁が認定する制度

※3 東京都スポーツ推進企業：社員のスポーツ活動の促進に向けた取り組みや、スポーツ分野における社会貢献活動を実施している企業等を東京都が認定する制度

### サステナビリティ

#### 「ISO20121」への取り組み推進

イベントの持続可能性に関する国際標準規格「ISO 20121」の認証を取得し4年が経過しました。今後も組織の成長と社会の変化に合わせて、定期的な見直しと進捗管理を行いながら、取り組みを進めてまいります。



#### 「スポーツ×SDGs」の開催

サステナビリティの普及のために、定期的にセミナーを開催しています。43期は横浜フリエスポーツクラブと共同で「スポーツ×SDGs」を開催する等、さまざまな切り口からネットワーク拡大に取り組んでおります。



### スポーツ分野

#### 「TEAM BEYOND」への参加

パラスポーツを応援する人を増やす東京都のプロジェクト「TEAM BEYOND」が開催するイベントに協力。当社は、来場者にパラスポーツの体験の場を提供し、競技の魅力や奥深さを体感していただきました。



#### パラ大学祭の開催

NPO法人D-SHIP532と、各大学の学生が中心となって開催されるパラスポーツの大会を共催しました。今後パラスポーツが日本で日常化していくため、多くの方に魅力を伝える機会を提供してまいります。



#### 「オールキッズトライアスロン大会」への協賛・ボランティア

未来のアスリートを支援することを目的とした大会に協賛するとともに、2016年から運営ボランティアとして社員が参加しています。頑張る子供たちを応援し、大会を盛り上げるお手伝いをさせていただきました。



#### 茨城県体育協会への寄付金の贈呈

2019年9月に、当社とその社員から集まった寄付金を、茨城県体育協会へ贈呈いたしました。寄付金は、県内のスポーツ少年団の活動の活性化を中心とした、さまざまなスポーツ振興に役立てていただきました。



#### 「上達する運動会」の開催

株式会社LAVA International、横浜市体育協会と合同で、障がいの有無に関わらず、みんなで楽しめる運動会を開催し、体を動かすことの楽しさや、パラスポーツの魅力を感じていただきました。



#### 陸上部の取り組み

今年で発足8年目を迎えるセレスポ陸上部。所属選手は、自身の夢に向かって日々トレーニングを行い、競技大会へ出場だけでなく、子供たちへの陸上教室を開催するなど、明るい社会づくりにも貢献しております。

##### 選手紹介



藤沢沙也加  
100m、  
200m、400m

白石黄良々  
100m、200m

伊藤明子  
400mハードル、  
七種混合

中村真悠子  
3000m障害  
(2019年度引退)

## IR活動

当社は経営の透明性を高めるため、今後も積極的な情報開示に取り組んでまいります。

2019年度開催の説明会 アナリスト向け：5月17日（東京）  
個人投資家向け：7月6日（東京）、12月14日（神戸）、12月21日（横浜）、  
2月17日（大阪）

IRに関する情報は当社Webサイトにてお知らせしております。

<https://www.cerespo.co.jp/ir/>

# 株式情報 (2020年3月31日現在)

## 株式の状況

発行可能株式総数	11,000,000株
発行済株式の総数	2,851,750株
株主数	2,184名

## 株主メモ

証券コード	9625
1単元の株式数	100株
事業年度	4月1日～翌年3月31日
定時株主総会	毎年6月中
配当金受領株主 確定日	期末配当金3月31日

## 大株主の状況

株主名	持株数 (千株)	持株比率
株式会社スマイル	550	19.91%
セレスポ従業員持株会	235	8.53%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	97	3.53%
日本証券金融株式会社	95	3.46%
株式会社SBI証券	78	2.84%
三木 征一郎	77	2.82%
稲葉 利彦	59	2.17%
村山 雅智	53	1.92%
衣笠 純	47	1.71%
北原 美子	40	1.45%

- (注) 1. 当社は、自己株式を89,762株保有しておりますが、上記株主からは除外しております。  
2. 持株比率は、自己株式を控除して算出しております。

# 会社概要 (2020年6月17日現在)

商号	株式会社セレスポ (英文社名: CERESPO CO.,LTD.)		
本社所在地	東京都豊島区北大塚1-21-5		
設立年月日	1977年7月21日	資本金	13億7,067万円
事業分野	イベント、スポーツ大会、プロモーション、式典、レクリエーション		
事業内容	1. 企画、制作、会場設営、運営および進行 2. 上記に関わる物品・什器備品の企画、開発、製造、販売およびレンタル 3. 土木ならびに建築の設計監理および施工 4. 警備業 5. 上記に附帯する一切の業務		
従業員数	415名 (注)		

(注) 従業員数は、2020年3月31日時点の正社員、契約社員、顧問、嘱託の合計人数が記載されております。

## 取締役会 メンバー

代表取締役社長	稲葉 利彦
専務取締役	田代 剛
常務取締役	鎌田 義次
常務取締役	生田 茂
取締役	宮田 一哉
取締役	堀貫 貴司
取締役	松田 英彦
社外取締役	野末 正博
常勤社外監査役	松井 敏彦
監査役	水越 潤
社外監査役	奥田 かつ枝

